



鎌倉の出版社

ご注文は JRC へ

港の人

FAX 03-3294-2177

詩文集

しゃとう

斜塔から

ひらばやしとしひこ

平林敏彦

ISBN978-4-89629-456-9 C0095 46 判上製本／カラー口絵 16 頁・本文 376 頁／定価 4400 円税込

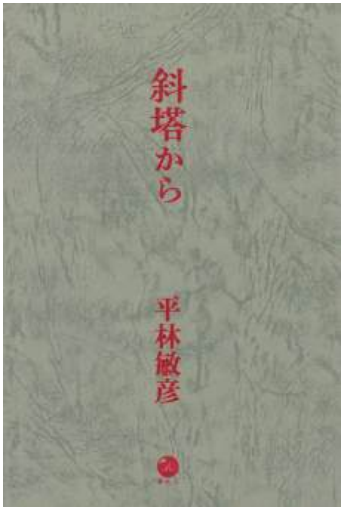
- 10 代の詩「斜塔」ほか 15 篇の詩が発見されて初公開する。
- 戦争詩を批判する詩人は戦後の廃墟に立ち、新しい詩をはげしく希求する。詩誌『新詩派』『詩行動』『今日』をつくり、戦後詩に多大な影響を与える。
- 90 代詩篇（4 篇）もおさめ、100 歳の詩人・平林敏彦の生涯にわたる詩精神の命脈を明らかにする重要な詩文集。
- 解説「廃墟と錯乱——詩人復活の背後」三浦雅士（評論家）
- 付「平林敏彦著作目録」（カラー書影付）、「詩誌『新詩派』『詩行動』『今日』書誌」

おもな散文

架空の近代——北園克衛論ノオト／三好達治論／近代詩に関する二三の批判／危機の自覚——現代詩の革命について／小野十三郎論／詩人研究 金子光晴／戦後詩の主題／「荒地」の impact ／「帰館」のことなど—追悼・谷川雁／暁天の星・田村隆一／辻井喬と詩誌「今日」のこと／鮎川信夫がいなければ……—追悼・牟礼慶子／林芙美子について 一九四八年「新風」／「今日」から「鰐」へ—大岡信の手紙にふれて、合計 32 篇

平林敏彦（ひらばやし・としひこ）

詩人。1924 年横浜市生まれ。戦後、『新詩派』『詩行動』『今日』を創刊、多くの詩人たちと交流をもつ。1951 年、第 1 詩集『廃墟』を上梓、54 年に『種子と破片』を刊行した。50 年代後期から約 30 年間の沈黙を経て、88 年に『水辺の光 一九八七年冬』を出版。以後、詩集に『磔刑の夏 一九九三』（93 年、第 5 回富田碎花賞）、『ツィゴイネルワイゼンの水邊』（2014 年、第 17 回小野十三郎賞）など旺盛な詩作活動を続ける。91 年横浜詩人会会長に就任。『戦中戦後 詩的時代の証言 1935-1955』（2009 年）で第 12 回桑原武夫学芸賞。2012 年第 18 回横浜文学賞。2025 年 4 月 6 日逝去。



*すべての取次からご注文は可能です（JRC 経由）。返品条件付き注文扱い

番線印	ご注文数	斜塔から 平林敏彦
		ISBN978-4-89629-456-9 定価 4400 円税込
ご担当：	様	港の人 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 3-11-49